

明治大学校友会豊島区地域支部会報

豊島支部 NEWS

2015年 第49号

<http://toshima.meiji-shikon.net/>
フェイスブックもチェック!!

校友会豊島区地域支部 平成27年度新年賀詞交歓会開催!

文責：昭和47年法学部卒幹事長 板橋 光一

豊島区地域支部恒例の新年賀詞交歓会が、平成27年2月21日18時から西池袋「地球飯店」で開催されました。

20代から80代までの校友約70名弱の参加で、地球飯店の広い会場が狭く感じられるというよりは、立錐の余地がないほどの大盛況でした。

式次第の内容は次の通りで、今回は新年に相応しい盛りだくさんの内容で予定時間内に終わることができず、「地球飯店」支配人の御厚意により終了予定時間を大幅に延長させて頂きました。

開会は、三浦昭生支部長（昭和42年法学部卒）の挨拶から始まり、乾杯を増田治美副支部長（昭和45年商学部卒）のご発声で全員が杯を掲げました。そして、豊島区を本拠地に活動される予定の溝田勝彦団長（昭和42年法学部卒）率いる「明治大学マンドリン倶楽部OB会メモリアルオーケストラ」の演奏をバックに懇親会が和やかにスタートしました。

会の進行役は、日頃から、幹事として校友会活動にご協力頂いている劇団ムジカフォンテ知久晴美代表にお願いし、その名司会の下に諸先輩方の新年のご挨拶を頂戴しました。東京商工会議所豊島支部鈴木正美会長（昭和39年政治経済学部卒）からは、初春に相応しい格調高い挨拶を頂いた後、特別ゲストとして豊島区高野之夫区長、豊島区観光協会齊木勝好

会長が参加され新年会会場が更に盛り上がりました。ちなみに、高野之夫区長、齊木勝好会長は、共に立教大学OBとのことですが、三浦支部長が日頃から標榜しております明治大学の枠を超えて地域に密着した校友会活動という理念にご賛同頂きご参加頂いたとのことでした。

今回は、新企画として、島倉仁志幹事（平成19年商学部卒）、長尾睦子幹事（昭和60年文学部卒）の進行役で大ビンゴゲーム大会が盛大に行なわれました。賞品は、校友会ならではの明治大学ゆかりの品を中心に多数ご用意させて頂き、大好評で喜んで頂きました。例えば、野球部およびゴルフ部の現役選手のサイン入りボールや、明治大学ロゴ入りのベンチウォーマー等々、島倉仁志幹事、長尾睦子幹事、秋元弘正幹事（昭和52年商学部卒）ほか多数の方々からご提供頂きました。

閉会時間が大幅に過ぎましたが、校歌斉唱を応援団出身の三森勲副幹事長（昭和54年商学部卒）のリードにより、参加者全員で肩を組み大きな輪を作ったの大喝となりしました。

そして、閉会の辞は、白砂正人副支部長（昭和44年工学部卒）からユーモアたっぷりに挨拶頂き、最後に山本守敏幹事（昭和45年商学部卒）の三本締めで2015年新年賀詞交歓会はお開きとなりました。



明治大学マンドリン倶楽部OB会メモリアルオーケストラ

団長 溝田 勝彦



すが、その名前は忘れ去られていく運命かも知れません。古賀メロディーを知る世代が減少し、かつ世の中の音楽が益々多様化していく中であって、「明治大学マンドリン倶楽部」の存在とその創り出す音楽をいつまでも残していくこと、またマンドリンの奏でる魅力ある音楽を広めたいと思っております。

メモオケは、演奏活動を通じてOB会員

相互の親睦と現役学生との交流を深め、演奏技術の向上を図り古賀メロディーの継承に努め、母校明治大学ならびに社会へ貢献することを目的としています。昨年6月有明スポーツセンターにおいて発足会および第1回目の練習を行いその第一歩を踏み出しました。7月には築地本願寺和田堀廟所「古賀政男先生37回忌法要」、10月には神奈川県民ホール「明治大学マンドリン倶楽部チャリティー演奏会」、11月には豊島区立勤労福祉会館

我々の演奏団体は、昨年明治大学マンドリン倶楽部OB会(以下OB会という)およびOB会総会において新演奏団体としてその設立が承認されました。そしてOB会の下部組織として発足することになりました。また、古賀政男生誕110年という節目の年にあたることを踏まえて、名称を「明治大学マンドリン倶楽部OB会メモリアルオーケストラ」(以下メモオケという)と命名しました。我々の恩師である古賀先生の名は、今の大学生には殆ど認知されていません。先生の作られた曲(歌)は世に残りま

「明治大学校友会 豊島区地域支部 総会」、池袋ホテルメトロポリタン「高野昭夫氏区政功労受賞祝賀会」等で演奏する機会に恵まれました。また10月に



は校友会豊島区地域支部の皆様のご協力により、「明大マンドリンOB豊島会」の名称で豊島区生涯学習団体として登録することができました。そのお陰で雑司が谷地域文化創造館を中心に練習会場の確保が容易にできるようになり、以後月2回程度のペースで練習を行っています。これからも豊島区を本拠地として活動していきたいと思っております。

メモオケは、下記のとおり念願の旗揚げ

コンサートを校友会豊島地域支部の後援により開催することになりました。ホール利用申込にあたっては多大のご尽力を頂き、心より感謝しているところであります。これからも校友会豊島地域支部とともに少しでも地域に貢献できるよう努力していきたいと思っております。また、大塚音楽祭・特養や区民ひろば等での演奏の機会があれば積極的に参加したいと思っております。是非お声掛け頂ければ幸いです。今後ともご指導・ご協力賜りたく宜しくお願い致します。

演奏会のお知らせ

平成27年9月20日(日)南大塚ホール

開演 午後1時30分

曲目 ロシア民謡・古賀メロディー等

指揮 甲斐靖文・玉置孝一

入場料 2000円

詳細は未定

行事予定

「暑気払い」

日時：平成27年8月1日(土)
場所：ホテル第二インレストラン「ピノ」



『平成27年度総会・懇親会 及びシンポジウム』

日時：平成27年11月14日(土)18時～21時
場所：豊島区勤労福祉会館 6階大会議室
住所：豊島区西池袋2-37-4
電話：03-3980-3131



明治魂を伝える



昭和54年 商学部商学科
株式会社クイック運輸サービス取締役

坂本 正秀

第二外国語専攻の中国語を武器に「世界を相手に」

私はここ豊島区地域支部では新人です。昨年暮れの総会からの参加です。初めて出席した折、なぜかMMC(明治大学マスコミクラブ)の前会長の斉藤さんから豊島区地域支部長の三浦さんに、「坂本という奴は支部活動を手伝うはずだ」と先口上が届けられており、それをご縁に幹事会の末席に座るようになりました。と言っても宴会要員ですが(笑)

私は昭和50年の商学部入学。硬式野球部の島岡監督、ラグビー部の北島監督と

両巨頭がご健在の時代を過ごした明大生は、「明治魂とは何か?」と問われたら、あれこれ言う前に自然に、お二方の言葉。島岡御大の「なんとかせい」そして北島監督の「前へ」を思い浮かべると思います

しかし不思議なもので20才前後ではその言葉の重みまでは解らないものです。それは様々な人生の起伏を経て、その精神に共感できてゆくものかもしれません。

私は岩手の生まれです。そして東日本大震災の前年、実に大学卒業後からですと三十数年ぶりに再上京しました。ですからそういう意味では東京で仕事を始めてまだ五年ちよつとの新参者です。

大学卒業後、地元岩手県盛岡市に戻り、地元新聞社を経て、広告や企画、スポーツ少年団のフリーペーパーの編集発行などをいたしております。

そのうち豚児二人も巣立ち、東京で自分で仕事をできるようになります。かねがね東京や世界を相手に仕事をしてみたいと思っていた私は、それを実行に移そうと決心します。それが今日につながっているという訳です。幸い豚児の関東一円を対象としたリサイクルビジネスも軌道にのり始めました。今は埼玉中心ですが隣県への

進出準備、そして産業廃棄物の運搬収集事業へのアプローチなど手伝う事は山盛りですが、親としては嬉しい限りです。

そして、その傍ら世界につながる仕事を創り出すことを夢見て時間を費やしていたと言うわけです。おかげさまで近頃は日中間の農業と医療関係を中心に取り組んでいます。

「世界を相手に」という願いが無意識に行動をリードしてゆくのか、東京では多くの海外からの皆さんと出会うようになります。やはり「人は自分が思うようにならない」というのは嘘ではないようです。第二外国語専攻が中国語だったこともあり、多くの華人の皆さんとの知己を得る事ができました。この原稿も実は中国から訪日した実業家の視察旅行の同行の合間をぬって書いています。例えばこの同行している企業グループの年商は、日本円に換算すると実に故郷岩手県の年度予算額を超える規模だったりします。これが東京で仕事をやる醍醐味ですね。

私は知らない方とお話するのが、とても好きです。今、それを世界に広げるべく、語学の勉強を始めています。それも欲張って中国語と英語。

学生の頃は、第二外国語専攻は中国語でしたが、クラス全員が先生に「なんでこの発音の違いがわからない!」と馬鹿呼ばわりされていたものです。それでもこの二年間の基礎があったればこそ、今、学べる

のだと実感しています。

そして、中国語で話せる内容は英語でも話せるようになる事を目標に英会話も同時進行中です。それが出来たらこれから先も、もっと興奮するようなオモシロい出会いがきつと待っていると信じています。「前へ」はその人の歩んできた道によって異なります。

ある方は、それを一意専心と言い、またある方は愚直と評されるかもしれません。私にとっては、その場より一步前に進み出て、新しく開けた世界を見続けること、それが私の「前へ」ということになるかもしれません。



中国から訪日した実業家の視察旅行に同行し、富士山麓の白糸の滝へ行ったときの写真。

『ソメイの愛』明治の愛

NPO法人ムジカフォンテ
劇団ムジカフォンテ代表理事
知久晴美(校友会幹事)

3月15日、明大校友会豊島区地域支部後援の舞台、ミュージカル『ソメイの愛』を大好评のうちに幕を閉じる事が出来ました。劇団ムジカフォンテは豊島区で設立し25周年の活動実績を持ち、豊島区制施行80周年の時には80年の歴史をミュージカルにまとめ創った『朝の光の中で』80歳のいけふくろう』を公演致しました。

その後NPO法人を立ち上げ精力的に豊島区地域に根差し活動展開を行って参りました。

今回は、3月23日豊島区新庁舎落成式をお祝いして、豊島区発祥と言われ豊島区の口ゴマークにもなっている「ソメイヨシノ」を題材としてミュージカルを創りました。

ネット社会によってコミュニケーションの希薄や家族の絆など現代の問題をテーマ



に、ソメイヨシノを発祥したと言われる駒込に住む伊藤伊兵衛をつなげリンクさせながら物語を展開させました。妻と2人の子どもを持ちリストラにあう幸一郎と、両親の喧嘩が絶えない中学生琴の出会いから、江戸の世にタイムスリップし伊藤伊右衛門(伊藤伊兵衛)と会います。植木職人の伊藤伊右衛門は、高倉家の吉乃と桜を通して恋仲となり、世の中の平和の為に新しい桜、「ソメイヨシノ」を作つてゆきます。身分の違いに葛藤しながらも、お互いの想いを込めたソメイヨシノが花を咲かせます。その中で幸一郎や琴も大切なことに気づいてゆき、家族のもとへ帰ってゆきます。

初めてミュージカルに出演した人やムジカフォンテの子ども達、客演の俳優さん達が一体となってひとつの作品を創つてゆく姿、感極まって涙して台詞が喋れなかったり、ウイットにとんだ会話を展開させたりと、最高のコミュニケーションをとることが出来、お客様にプレゼン出来たと自負しております。

客席では出演者のこの熱き想いが伝わり、笑いや鼻をすする音が舞台上に伝わってきました。

まさに舞台と客席が一体となれたことをとても嬉しく思います。

またホワイエでは、桜を題材としたお写真や豊島区内の桜の名所の地図、出演者達の笑顔の写真とコメントなど、にぎやかに展示しお客様に喜んで戴きました。

いつもは出演者のお母様が立ち表方を支えてくれる受付も、今回はNPO法人理事の方々も加わり盛り上

げて下さいました。その中には我が明治の三浦支部長もいて下さいました。もちろん客席にも明治の皆様が沢山来て下さいました。

縁を戴き、繋がり共に活動展開させて戴ける事、明治の皆様にご指導ご支援を戴ける事は、私にとっても劇団にとつても最高の幸せです。喜びです。

この感謝の想いを胸に劇団員共々更に精進し、豊島区の作品を多く創つて社会へアピールして参ります。これからもどうぞご指導ご鞭撻の程を宜しくお願い致します。

明治の愛に感謝。

◆公演当日アンケートより

家族の大切さを改めて知りました。とても感動しました。家に帰ったら日頃の感謝の気持ちを伝えたいと思います。(20代女性)

とても楽しかったです。サクヤ姫やチル姫、うえ木しょくにんたちが面白かったです。また見たいです。(9歳男の子)

ミュージカルを初めて観ました。ちょうど昨日、家族をケンカした矢先の本日だったので色々と考えさせられました。また来ます。(20代女性)

心が温かくなりました。私の心にも桜が咲きました。人はどんな時でもあきらめてはいけません。希望を持っていなければと思いました。(50代女性)

とても感動だった。自分も家族に支えられていることの幸せを感じた。親に感謝して、これからの人生を送りたい。主役の二人の演技を見て、人間であることの素晴らしさを知った。何気ないところで咲いている桜。その桜によつ

て僕たちは元氣付けられ毎日を楽しく生きれているのだと思った。しっかりと胸にきざんでこれから過ごしたい。(15代男性)

とても楽しかったです。心にストレートにひびくストーリーでした。桜の花でいくさのない世の中に…こんな時代だからこそジーンを突き刺さりました。これからはずっとずっと応援しています。DVDできたら絶対かいます。一人でも多くの人につたえたい。(30代男性)

今年の桜は、色々考えながら見られそうです。西の方の争いの方も、染井吉野の事も、そして家族愛もとてもよい脚本でした。このお芝居を世界中の人に見せてあげたいと思いました。この作品を見られて良かった。

幸一郎さんの「幸せは守らなければ消えてしまう」という言葉から、両親のありがたみを再認識できた気がしました。社会人になりきれていない自分には耳が痛く、また「泣くほどにありがたいいなかった」と反省する幸一郎さんにもまだまだまだなと感じた。

ソメイヨシノをつくつて戦争のない世界を、というようなセリフがありました。花の力で本当に世界に戦争のない時代が来ればいいなと思います。

タイムスリップをするという点を派手に見せず、家族や心を表現することに一途な脚本と演出。ありそうで無い良い舞台でした。大人の矛盾をいまだに許容できずにいる己と琴さんを比べて、どうでも良いと言えるほどに何かをしきれていない己と幸一郎さんを重ねて…心の矛盾を目の前に突き出されながらも効果的な歌や言葉に勇気をもらいました。亡き母を思い出して、涙が止まりません。(30代男性)